

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2018～2019年度 国際ロータリー バリー・ラシン 会長テーマ

BE THE INSPIRATION インスピレーションになろう

創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyac@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 鈴木 文三郎
幹事 豊田 貴久
会報委員長 磯部 一智

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3018回例会プログラム

[当年度 = 3 回目; 当月 = 4 週目]

2018年(平成30年) 7月23日(月)

1. 例会……………〈司会: プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……日も風も星も
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告

8. 地区大会PR……
地区大会実行委員会(蒲郡RC)
おおまち としゆき たなか じゅん
大町 敏之 様・田中 順 様

9. 幹事報告

10. 出席報告

※第4四半期皆出席の発表(出席委員会)

11. 委員会報告
12. ニコニコボックス報告
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(7/30) ……

クラブ協議会並びに懇親会

(フェロシップ委員会)

17:30～刈谷商工会議所

(8/4) ……

観劇家族例会(フェロシップ委員会)

10:30～例会・食事

(愛・地球博記念公園内地球市民交流センター)

12:00～観劇

(愛・地球博記念公園アイススケート場)

※8月6日(月)の例会変更分です。

13:00 14. 本日のプログラム

卓話「帰国報告」

青少年交換学生 山口 柚実 様

地区出向者アワー 吉岡 秀記 会員

(紹介者 加藤大志朗 会員)

15. 謝辞
16. 点鐘……〈会長〉
17. 閉会宣言

13:30 18. 散会

ビ ジ タ ー

大町 敏之 様(蒲郡RC)
田中 順 様(蒲郡RC)
鈴木 民也 様(知立RC)
杉原 透恭 様(知立RC)

ゲ ス ト

山口 柚実 様(青少年交換学生)

出 席

会員総数 94名 出席免除 25名
出席義務者+免除者の内例会出席者 82名
欠席 7名 出席率 91.46%
前々回(7/2)の修正出席率 100%

会 長 報 告

- 1) 7月9日(月)、刈谷市竹中良則市長を表敬訪問
してきました。
2) 7月15日(日)、青少年交換学生の山口柚実(ゆみ)
さんが18時15分セントレア着のフライトで無事に帰
国しました。



- 3) 7月19日(木)、中京ゴルフ倶楽部石野コースにて、7月のゴルフ同好会が開催されました。グロス72、ネット69.6の素晴らしいスコア&9回目のエージシュートで盛田豊一会員が優勝されました。

幹事報告

- 1) 11月10日、11日にて開催されます、国際ロータリー地区大会のパンフレットをメールBOXに配布させて頂きました。
- 2) 11月17日に開催されます石見神楽(いわみかぐら)のチラシとポスターを机の上に配布させて頂きました。
- 3) 本日例会終了後に事務局にて前年度の理事会を開催致しますので、関係者の方のご出席をお願いします。

委員会報告

●社会奉仕委員会

- 1) 社会奉仕委員会からのお願いです。7月5日に発生した西日本豪雨に対する義援金の依頼が地区並びに地区社会奉仕委員長の杉浦文雄会員より来ておりますので、例会中に義援金BOXを回しますのようしくお願い致します。

会長あいさつ

鈴木文三郎



本年度国際ロータリー会長、バリー・ラシン氏の出身国、バハマとはどのような国なのか調べてみました。

Commonwealth of The Bahamas
バハマ国、通称バハマは、西インド諸島のバハマ諸島を領有する国家です。英語圏に属し、イギリス連邦の加盟国であると同時に英連邦王国の一国たる立憲君主制国家であります。島国であり、海を隔てて北西にアメリカ合衆国のフロリダ半島が、南西にキューバが、南東にハイチが存在します。首都はニュー・プロビデンス島のナッソー。約700の島々と2,400の岩礁からなる群島で、うち30の島々に人が住んでいます。面積は13,940km²と長野県とほぼ同じ。人口は342,000人です。

歴史的には、先住民のアラワク族が定住していた土地に1492年10月12日、イタリア人クリストファー・コロンブスが到達。上陸した島がサン・サルバドル島。これがコロンブスによる新大陸の発見となります。1647年にイギリスが植民地化を開始。1783年ヴェルサイユ条約によって正式にイギリス領と認められます。1920年から1933年までは、アメリカで禁酒法が制定され、バハマは酒などの密輸の一大中心地となりました。1973年7月10

日、英連邦王国の一国として独立。

観光業とタックス・ヘイヴンなどの金融業が経済の中心。首都ナッソーを始めカジノに興ずる観光客も多いです。2016年9月にはバハマ文書の公開によって、バハマにペーパーカンパニーを設立していた企業や個人名が公開され、注目を集めました。

バハマの国旗の左側の黒い三角形は、国民の85%を占めるアフリカに由来を持つバハマ国民の団結を意味します。右側の二本の青い帯は大西洋とカリブ海を意味し、右中央の黄金の帯は大西洋とカリブ海に囲まれた陸地、すなわちバハマの島々を意味します。

ここで、イギリス連邦 Commonwealth of Nations と英連邦王国 Commonwealth realm について少し述べます。

イギリス連邦は、かつてのイギリス帝国がその前進となって発足し、主にイギリスとその植民地であった独立の主権国家から成る、緩やかな国家連合です。現在の加盟国数は、イギリスを含めて53か国であります。これは、国連に加盟する全世界193か国の27.5%にあたります。そのうち、イギリスの王座にあるもの、現在はエリザベス2世を自国の国王として戴く主権国家を英連邦王国といい、現在16か国あります。アンティグア・バーブーダ/オーストラリア/バハマ/バルバドス/ベリーズ/カナダ/グレナダ/ジャマイカ/ニュージーランド/パプアニューギニア/セントクリストファー・ネイビス/セントルシア/セントビンセント・グレナディーン/ソロモン諸島/ツバル/そして英国の16か国です。

バハマという国が少しは身近かに感じられるようになったのでしょうか。機会があれば、行ってみたいです。

今年度地区大会 PR



「帰国報告」

青少年交換学生 山口 柚実 様



みなさんこんにちは、この度刈谷ロータリークラブの皆さんにスポンサーしていただき、カナダのフリントフロンに派遣されておりました、山口柚実と申します。今日は、私がカナダで驚いたこと、困ったこと、好きになったこと、そして学んだことを紹介したいと思います。

を紹介したいと思います。



まず最初に、私が滞在していた街、フリントフロンについて、お話ししたいと思います。

フリントフロンは、カナダのちょうど真ん中に位置しているのですが、カナダにある、「街」としてはかなり北に位置しています。

カナダの人口の90%がアメリカとの国境沿いに集まっているそうです。フリントフロンは人口5000人という、刈谷の30分の1ほどの大きさです。見て分かる通り、かなり都市から遠くに位置しています。冬はマイナス40度を超えることもありました。夏は30度くらいまで上がりますが、日本ほど湿度が高くないので、あまり暑いとは感じませんでした。

フリントフロンは鉱業で有名で、今は、掘るのみで加工はしていないので、煙突は動いていないのですが、フリントフロンのひとたちにとっては街のシンボルとなっています。

また、街の周りに綺麗な湖がたくさんあり、別荘地としても有名なようです。ホストファミリーやロータリーの方が釣りに連れて行ってくれたり、お友達が泳ぎに誘ってくれたりしました。

フリントフロンのロータリークラブの方々とはとても歓迎してくださり、週に一回の例会にはほとんど毎回参加させて頂きました。その例会ではその1週間何をしたのかという軽いスピーチを毎回していて、いい英語の練習になっていたのではないかなと思います。



また、ロータリー主催のイベントもお手伝いさせていただきました。地域への資金援助やボランティア活動などたくさんあったのですが、特にロブスターナイト、という海に面していないフリントフロンでもロブスターを楽しむというイベントや、RCAFというカナダの空軍の方々がフリントフロンに来てエアショーしてくださったイベントは思い出に残っています。

まず最初に私がカナダに一年間滞在して驚いたことを紹介します。

一つ目は冬の寒さです。フリントフロンは、カナダでもよく冷え込む地域で、さらに今年は例年に見ない寒さと雪の量だったとカナダ人もびっくりする寒さだったようです。基本的にはホストファミリーが送り迎えをしてくださり、それを苦にはしない方だったのですが、一度だけ、私が学校にクラブ活動に行かなければいけなかったのですが、ホストファミリーはお仕事があり、外が猛吹雪の中歩いて学校に行かなきゃいけなかった時は、ちょっと歩いて死を感じて諦めたことがあります。ですが、カナダの方は冬を楽しむ方法を知っているように見えました。ホッケーやスケート、また丘っぽい地形を生かしたクロスカントリースキーやスノーシューなど初めてやることばかりでしたが、たくさん体験させていただきました。特にクロスカントリースキーはホストファミリーに誘っていただき12kmもの長いコースに挑戦したのは楽しかった思い出の一つです。

二つ目はたくさんの野生の動物がいました。キツネやリスはちょっと街を歩けばすぐに見つけることができました。また、例えば鹿だと、普通のしかと、ヘラジカと、トナカイとカリブーと言ったようにたくさんの種類があり、また簡単に見ることができます。カナダの青少年交換委員会が企画してくださった、フリントフロンから車で四時間と1時間のフライトで行くことができる、チャーチルという場所では、白熊を本当に近くで見ることができました。一面銀世界の中で優雅に歩くその姿は未だに忘れられません。

次に、私がカナダで困ったことを紹介します。

一つ目は、広く平らな土地と、長い車移動です。私はこの刈谷市出身ですから、もっと言うと JR の特別快速も名鉄も止まる刈谷市出身ですから、どこかに遊びに行

きたい時には、新幹線を使えば2時間で大阪、3時間もあれば東京に着いてしまうわけじゃないですか。ですが、カナダでは特に冬には必ず誰かに送ってもらわなければいけません。命の危機なので。あと電車は基本的に貨物車両しか走っていないので、州都のウィニペグには10時間のドライブをしなくてははいけませんでした。また、ロータリーの5550地区もかなり大きい地区だったので、必ず1日学校を休んで地区のオリエンテーションに行かなければいけなかったのは、ちょっと困りました。

二つ目は学校でした。理由はかなり違ったことです。もともとわたしは中高一貫の女子校に行っていたので、共学で、全校生徒が三百人程度の小さなコミュニティの学校ではどうしていいのかわからなかったのです。また、私以外のみんなはお互いのことをよく知っていることに少しさみしく感じてしまったこともあり、学校に行くことが辛かったこともありました。



しかし、私はこの1年間いろいろなことに参加するように心がけました。チームスポーツを小学校以来やることがないのに、バスケットボールに参加したり、合唱に参加してパンフまでトリップに行ったりしたことなどいろいろな子と喋るきっかけになり、お友達ができてきたら、学校に行くのが本当に楽しくなりました。

これからは、カナダで好きになったことを紹介します。

一つ、フリンフロンでした大きな挑戦は、合唱団への参加です。学校の合唱団だけではなく、地域のものにも参加しました。あまり人前に立つことが得意ではなかったわたしですが、合唱団の方々とステージに立てたのはとても嬉しかったです。特に地域の合唱団のコンサートの時に、着物を着てステージの前に立ってちょっとした演技というかほぼジェスチャーだったのですが、そういったことができたのは日本の文化を少し伝えることができたかなと思います。

またカナダでの景色は本当に綺麗なものでした。終わりがあつたことを知っていたからかもしれませんが、一瞬一瞬にとっても感動しました。フリンフロンで見ることのできたオーロラと日没は本当に綺麗で、この先忘れられないものだと思います。

最後に、私がこの1年間で学んだことを伝えたいと思います。

(4)

一つ目は、私たちはどんなに違っていても仲良くできるということ。私はこの一年、交換留学生としていろいろな国から来た人々に会いました。わたしたちは家族と友達を母国において、カナダに身一つできている、それだけが最初の共通点でした。ですがたった5回お互いにあっただけで、最後にサヨナラを言い合わずにはいけない時にはみんなが泣いてハグしあいました。そのくらい互いに親友を通りこして家族のように感じていました。

また、学校でも最初は本当に誰も話してくれなかったのですが、たった少しだけ、横に座っている子に「おはよう」と声をかけただけで、一緒にお昼を食べようになり、その話はドンドンと広がっていているのを感じていました。この一年でできた友達は、何か新しい関係を作る時にはただ少しだけ、歩み寄る勇気があるだけであることを教えてくれました。

また私は家族の大切さも学びました。私は3つのホストファミリーにお世話になったのですが私自身の家族ともかなり違っていました。ひとつ一つの家族がひとつひとつの色があり、関係性の形がありました。ですがどのホストファミリーも私に優しくしてくださったことは同じでした。この3家族が、私と家族になってくれて、夕食を一緒に食べたり、ゲームをして一緒に笑いあえたことはとても素敵なことだったと思います。

カナダのフリンフロンへ、歴史と伝統のある刈谷ロータリークラブから行かせていただけたことはとても光栄に思います。またこの一年間の経験を生かして、帰国生、また ROTEX としてロータリーの活動をお手伝いできたと思います。会長さん、わたくしのプレゼンテーションはしなやかだったでしょうか？ ご静聴ありがとうございました。

地区出向者アワー

吉岡 秀記 会員



地区青少年交換委員会の活動について本日はお話しさせていただきます。

I. 青少年交換に関する仕事

- ①各種オリエンテーションの企画・実施 (12回以上)
- ②候補生から派遣生への教育・手続き (8月～6月)
- ③受入生の受入交渉・手続き (8月～翌7月)
- ④交換プログラム参加クラブへの対応 (1年間を通じ)

- II. 危機管理委員会との連携 (事案発生から解決まで)
- III. 他委員会との合同企画 (RIJYEC、RA、RYLA など)

IV. 地区青少年交換委員会の年間行動予定をご紹介します。

- 3月 4地区（長野、岐阜三重、静岡山梨、愛知）合同合宿
オリエンテーション（来日生、候補生、帰国生）
- 4月 地区研修協議会で募集要項発表
- 5月 来日生・派遣性の書類チェック
- 6月 世界大会プレコンにて海外地区担当者と面会し交換プログラム打診
- 7月 来日生を受けてもらうホストクラブ、ファミリー、学校、カウンセラーへのオリエンテーション
- 8月 志願者試験による選考会、候補生送り出し、帰国生・来日生出迎え
第1回オリエンテーション
- 9月 帰国報告会、帰国生の成長ぶりに感動
- 10月 地区大会にて候補生・帰国生・来日生を紹介
- 11月 ホストファミリー懇談会で問題解決対応
- 12月 候補生・帰国生・来日生の東京研修
- 1月 ロータリージャケット準備
- 2月 情報交換会（ホストファミリー、学生、委員会）

地区で最も忙しい（委員会20日以上、深夜・土日緊急招集あり）委員会とされていますが、刈谷 RC の名に恥じぬ様頑張ります。委員会活動の上で、ご迷惑をおかけする事もあるかとは思いますが、ご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。

7月度刈谷 RC ゴルフ例会

平成30年7月19日(木)

於：中京ゴルフ倶楽部石野コース

成績	氏名	G	H	N
優勝	盛田 豊一	72	2.4	69.6
2位	磯部 一智	83	13.2	69.8
3位	塚本 幸夫	88	18.0	70.0
B B	鈴木 豊	118	36.0	82.0

